

福祉貸付事業の契約額、昨年度は過去最高ー福祉医療機構

[医療介護CBニュース](#) 7月19日(木)15時58分配信

福祉医療機構による「福祉貸付事業」の2011年度の契約額は2447億円に上り、05年度の2174億円を上回って過去最高額を更新したことが19日、分かった。前年度に比べると761億円(45.1%)の増。同機構によると、09年度の第1次補正予算で打ち出された「介護基盤の緊急整備」により、施設整備が急速に進んでいることが影響しているという。

同日に開かれた厚生労働省の独立行政法人評価委員会医療・福祉部会で、同機構が示した。

福祉貸付事業の契約額の内訳は、特別養護老人ホームなど「老人福祉関係施設」が1998億円、保育所など「児童福祉関係施設」が296億円、「障害者福祉関係施設」が115億円など。

また、11年度の「医療貸付事業」の契約額は1399億円で、前年度に比べて24億円(1.8%)増えた。内訳は、病院が1032億円、診療所が94億円、介護老人保健施設が270億円などだった。

■自己評価、貸付事業など5項目で最高

同機構はこの日の部会で、11年度の業務実績の自己評価を提示した。全16項目のうち、福祉貸付事業や医療貸付事業、社会福祉施設の職員に退職金を支給する「退職手当共済事業」など5項目が、5段階で最も高い「S」評価。また、地域を支える民間の福祉活動に助成を行う「社会福祉振興助成事業」や、医療・介護施設向けの経営指導を行う「福祉医療経営指導事業」など9項目が2番目に高い「A」評価、残り2項目が「B」評価だった。【外川慎一郎】